

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(観光ネットワーク担当)
たきもと じゅんぺい
瀧本 淳平

◎ 12月から協力隊に着任した瀧本さん。なぜ黒潮町の協力隊を選びましたか？

① 私は宿毛市出身で、高校を卒業してから約13年、三重県の鈴鹿サーキットで働いていました。2、3年ほど前から転職を考えるようになり、「SMOUT(スマウト)」という移住スカウトサービスで地域おこし協力隊のことを知りました。日本全国の募集を見ていましたが、黒潮町の協力隊募集を見かけて、学生の頃、黒潮町に対しては「海が綺麗」、「食べ物が美味しい」といった程度の印象だったので、もっと詳しく知りたいと思ったことがきっかけです。また、前職では月に1度災害に備えた訓練をするなど防災が身近にあり、町全体での防災はどういう動きになるのだろうかという興味もあったため、黒潮町の協力隊を志望しました。

◎ 黒潮町に住んでみてどうですか？

② 飲食店や体験プログラムが想像していたより多かったです。あとは食べ物が美味しいと改めて思いました。黒潮町でサトウキビ産業が盛んなのも恥ずかしながら知識不足で、黒潮町は魚だけではないんだなという発見もありました。これからどんどん人とのつながりを持ち、一次産業をしている方々の苦労話や成功体験を聞いてみたいです。お客さんの誘致ももちろんですが、自分でも体験を楽しんでみたいと思います。



デスクで仕事をする瀧本さん

◎ 今後仕事ではどんなことがしたいですか？

③ ① お客さんに喜んでもらえる新規の体験などはないかアンテナを張っていきたく思います。各体験プログラムの実行部隊は私たちではないことが多いので、事業者さんの気持ちを汲み取りながら、サポートしていきたいです。

協力隊から一言!

事業所の方と同じ目線で黒潮町を盛り上げていきたいと思っています。よろしくお願いします。

Kramer's Corner クレマのコーナー



今月のテーマ グラウンドホッグデー

もう2月になり、いつの間にか春がやってきます。今年は暖かい春らしい陽気が早く来るか、それとももうしばらく寒い日が続くのでしょうか。アメリカでは、これを予想するため、不思議な行事を行います。2月2日の「グラウンドホッグデー」にグラウンドホッグという動物を使い、春の到来時期を占います。

グラウンドホッグは、ウッドチャックとも呼ばれ、体長が40~65cmのリス科の小動物です。穴を掘るのが得意、冬に巣穴で冬眠します。グラウンドホッグデーの話によると、冬眠から目覚めたグラウンドホッグが巣穴を出て自分の影を見ると、驚いて巣穴に戻り、冬があと6週間長引きます。しかし、影が見えない場合はグラウンドホッグが外で遊びたわむれ、春が間近に迫っていると占われます。

2月2日にアメリカのいくつかの町でグラウンドホッグデーの祭りがありますが、最も有名なのはペンシルバニア州のパンクサトニー町のイベントです。そこに住んでいるドイツ系移民の伝承がグラウンドホッグデーの発祥とされ、町の恒例行事が1886年からずっと続いています。そこで、全国に知られているパンクサトニー・フィルという名前のグラウンドホッグの占いが報道されています。その年の本当の天候を見ると、パンクサトニー・フィルの精度がそんなに良くないが、それでも熱心なファンが多くいるらしいです。今年は何を予想するのでしょうか。



グラウンドホッグ

今月の使える! 英語

Bundle up!

「暖かい服を着てね!」という意味の寒い時の便利なフレーズ。直訳すると、「包み込む」や「丸め込む」という意味ですけど、人に対して使ったら自分を包み込むように何枚も着て暖かくすることです。

